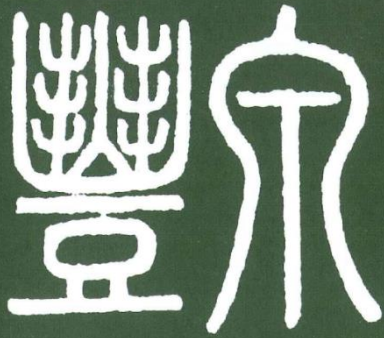


ほうせん



弘前大学附属図書館報
The Hirosaki University Library bulletin

2022.11

豊泉（ほうせん）とは 本学図書館が「汲めども尽きぬ豊かな知の泉であるように」との思いから、松原邦明名誉教授により名づけられました。（出典：明治9年『仏国学制』（文部省翻訳・出版）附録上巻「学校ニ於テ教フル所ノ学科ノ外ニ、又人智ヲ広ムルノ豊泉アリ」）



特集：第8回附属図書館POPコンテスト受賞者発表

- 06 本との出会いを楽しむ〈第29回〉看護師の本棚 「職業人として、偉大な先輩から得るもの」
(むつ総合病院 看護師 笹竹ひかる氏)
- 07 こんにちは、図書館です！～先生インタビュー～ (教育学部准教授 鈴木愛理先生)
- 08 本を持って出かけよう〈第3回〉～矢立峠を歩く～
- 09 My Favorite Library 教えて！あなたの好きな弘大図書館
- 10 Library's Half Year
- 11 寄贈図書紹介
- 12 図書館員ちよこっコラム&編集後記

No.56

第8回弘前大学附属図書館 POPコンテスト受賞者発表

今年もたくさんのご応募・ご投票ありがとうございました！シール投票・WEB投票により、こちらの5作品が入賞しました。受賞者の方々から、この本を選んだ理由や、応募したきっかけなどについてコメントをいただきました。

大賞

理工学部3年 吉永 出



図書館は借りたい本を借りに行くだけの場所ではなく、予想外の本とも出会う場所でもあると思うので、なかなか借りられる機会の少ない画集という媒体にも触れてもらいたくてこの作品を選びました。

この作品の一番のアピールポイントはPOPでも書いているように下書きも修正もせずに一発描きの作品であることで、読んでもらったら驚くこと間違いなしなので、是非手に取って見てみてください！

優秀賞

医学部3年 佐々木 慎一郎



昨年度に引き続き、優秀賞を受賞することができ大変光栄です。最近、短くて多彩なツール、タイパを求めるといふ急ぎが流行っていますが、そんなに生活は豊かにならなそうであります。バランスよくコンテンツを選択して貧乏な消費ではなく、おおらかで豊かな消費を薦めたいです。よく忍耐し、時に幸運です。あまり短い眼でなく、風景は長くゆっくり眺めると云うことです。自省録は、そんな我々への memo です。



この度サンライズ産業(株)賞をいただくことができ、大変光栄です。様々な子どもたちの特性を知りたいという思いから、この本を手に取りました。この本には、7人の子どもの性格とその子を理解するポイントが、かわいいイラストと共に描かれています。子どもや自分、周りの人を知りたい人、優しい雰囲気の本が読みたい人、すべての方におすすめです。このPOPが、誰かこの本が出会うきっかけになってくれたら嬉しいです！

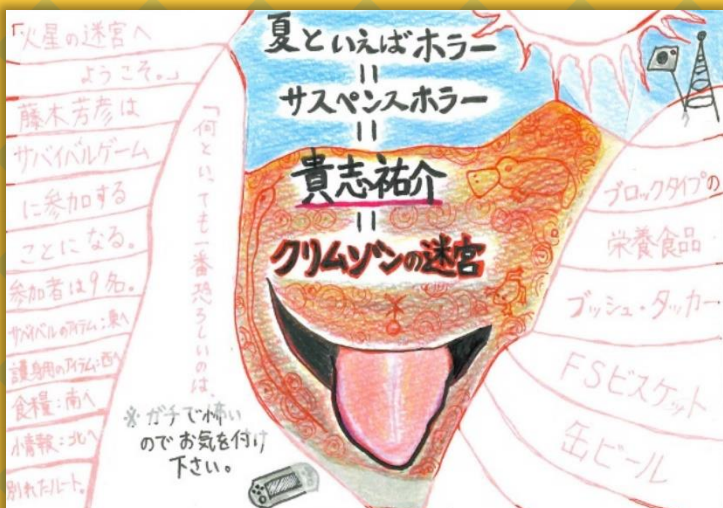
佳作



農学生命科学部1年 黒沢 日菜

この作品で受賞することができたこと、大変嬉しく思っております。本書では、新型コロナウイルスで話題になったmRNAワクチンの誕生秘話やそのメカニズム、従来のワクチンとの違い等について書かれています。

本書の出版から約1年が経ちました。ワクチンの接種が進む中、接種後に亡くなられた方の遺族会が結成されるなど、流れが変わりつつあります。ワクチンについて一度立ち止まり再考するきっかけとなりましたら幸いです。



人文社会科学部3年 加藤 明日香

佳作という賞を頂けたこと、とても嬉しいです。賞品の図書カードで貴志祐介の新しい本を買いたいと思います。『クリムゾンの迷宮』を選んだ理由は、同作者の『新世界より』を読んだ時に「ファンタジーな世界観をこんなにも緻密に作れる人がいるんだ！」と感動し、同じくらいにえぐいと評判の本を手に取り、物語の内容の濃さにどんどんと引き込まれたからです。漫画化もされているそうです。あと『天使の囁き』もおもしろいです。



羽淵館長（前列右）
サンライズ産業株式会社
工藤取締役管理部長（前列左）
及び受賞者のみなさん

弘前大学附属図書館では、2015年より毎年、図書館の利用促進や読書推進を目的としてPOPコンテストを開催しています。

今年もたくさんの応募があり、作品はすべて該当図書と共に図書館本館の2階企画展示コーナーに展示されました。そして、来館者からのシール投票及び専用WebページからのWeb投票によって、全5作品の入賞が決定しました。

今回は、作者の筆致を想像させるような言葉と写真で『40 days dans le désert B』（B砂漠の40日間）を紹介した理工学部3年吉永出さんが大賞を受賞しました。優秀賞には、モノクロの写真と印象的なコピーで『自省録』を紹介した医学部3年の佐々木慎一朗さんのPOPが選ばれました。



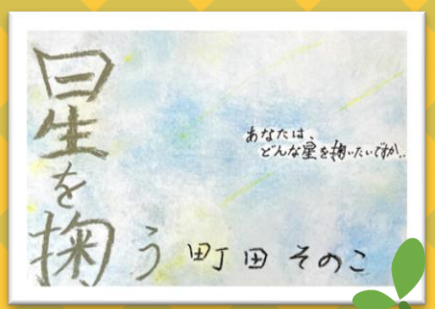
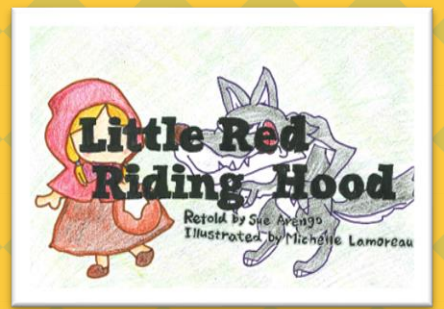
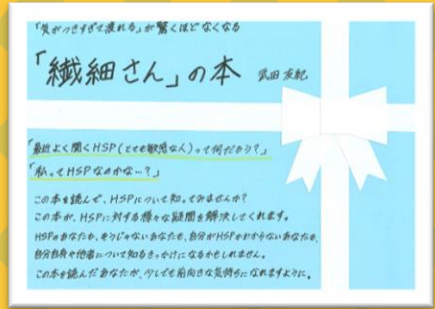
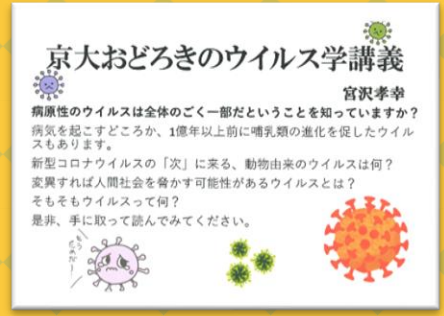
また、今回もサンライズ産業株式会社様にご協賛いただき、サンライズ産業(株)賞は、色鉛筆のかわいらしいイラストで『星と虹色なこどもたち』を紹介した教育学部1年の佐々木優奈さんが受賞しました。

3年ぶりに行われた表彰式ではそれぞれの受賞者に表彰状と賞品の図書カードが手渡され、受賞者からこの図書を選んだ理由などについて熱い思いが語られました。



受賞POPと該当図書は引き続き展示する予定ですので、気になる本がありましたらぜひ借りてみてください。





今年もたくさんの素敵な POP を
ありがとうございました！

本との 出会いを 楽しむ

第 29 回

看護師の本棚

「職業人として、偉大な先輩から得るもの」

笹竹ひかる

看護師・急性重症患者看護専門看護師。2014年弘前大学大学院保健学研究科博士前期課程修了。看護師、大学で教員経験を経て、専門看護師養成コースの大学院へ進学・修了。現在は看護師としてむつ総合病院に勤務。



後輩の看護師と会話をしている中で、私は「将来は認定看護師か専門看護師を目指しています。」と就職時の面接で答えたことを思い出しました。そして専門看護師を目指し、大学院へ進学しました。専門看護師には求められている6つの役割があります。その中の一つに〈高度な実践〉を行うことが求められています。大学院在学中から、〈高度な実践〉とは何を指しているのかが分からず、本を読んでみたり友人と議論したりということをしていました。そうこうしているうちに大学院は修了し、臨床の中で模索することになりました。

むつ総合病院で勤務し、弘前大学大学院の同期と交流する中で書店に行くことが習慣となっていました。そのときも〈高度な実践〉とは何かを模索中のため、いつもの書店に行き、それらしきことが書いている本を探すのです。すると看護に携わる者で知らない人はいないであろう理論家の名前が目に入り、手に取ってみました。その本は、『ベナー看護実践における専門性：達人になるための思考と行動』です。新人から達人までの知識や実践の思考や行動を、看護師へのインタビュー内容をもとに書かれています。また、新人から一人前、一人前から中堅、中堅から達人へと移行するために必要なこと、職場環境についても書かれています。

〈高度な実践〉とは何かを考えるにあたり、この本を読んだことで、自分の思考の狭さに気づきま

した。自分が目指す専門看護師分野で〈高度な実践〉とは何かを考えていましたが、分野に捉われず、看護師として〈高度な実践〉を考えるきっかけを得ました。

例えば、看護では患者さんなど対象者の言葉を聞く(聴く)能力を身につけることが大切だといいますが、この本に出てくる達人は〈聞く(聴く)〉能力に長けているというのです。弘前大学大学院在学中の研究活動の中で、本質に迫るために聞く(聴く)ことを学びました。きっと本に書かれている達人も本質に迫るために聞く(聴く)のです。スペシャリストとして特定の分野に長けた〈聞く(聴く)〉という行動も〈高度な実践〉といえるのではないかと考えさせられることになりました。

この本は、看護学生はもちろん、ある程度の臨床経験を経てから読むことで、共感すること、腑に落ちることがあります。読む者の経験や置かれている状況によって、さまざまなことが見えてくると思います。あらゆる世代の方に手に取って見てほしい1冊です。

(ささたけ ひかる)

分館所蔵

「ベナー看護実践における専門性：達人になるための思考と行動」
Benner P. E. ほか 著

早野真佐子 訳

492.9
B35k

医分館5層(図書)

—先生は文学教育がご専門ですが、学生時代はどのように図書館を利用されていましたか？

学生時代は、研究の資料を集めるために図書館をよく利用していました。現代小説の教材性についての先行研究は少ないですし、まとまった研究もまだないので、雑誌でのインタビュー記事や特集など、その作品や作家に関する資料はどんな小さなものでも手に入れたいものです。記事の名前さえわかれば大学図書館を通じて全国の図書館資料を請求できたので、とても助かりました。

—どんな本をよくお読みでしたか？

深く印象に残っているのは、江國香織や川上弘美、多和田葉子の作品です。例えば、くまに誘われて散歩に出るお話*1や、きゅうりと帽子と数字の2がホテルカクタスという名のアパートに住んでいるお話*2など、童話のような設定ですが、きちんとさめた言葉で書かれているところにはっとさせられました。映像化される小説も多いなか、言葉でしかできないことをしていると感じられる作品に惹かれるのだと思います。フィクション（虚構）はファクト（事実）ではありませんが、フェイク（偽物の現実）でもない、ある種の真実だと認めざるをえない、そう感じさせる文体（言葉の肌理）に触れている時間が好きです。

—先生にとって「読書」という体験はどのようなものですか？

小さいとき、本は誕生日やクリスマスに両親から贈られるものでした。また、通学時の車内や病院での待ち時間の友でした。読書は、別の世界に深く入りこむ体験だと思っています。文学に限らず、読書は書かれている世界への没頭をもたらしてくれます。もちろん、すべての本でそうなるわけではありません。私は妹と本を共有していましたが、私がまったくそそられなかった本を妹が真剣に読んでのを見ると、とても不思議に感じました。読書という体験は、とても個人的で、個性的なものでもあると思います。

本を読むとき、読者は書き手や語り手の目を通して世界や他者の断片をみつめます。自分の目（言葉）を離れて得る自由がそこにはあるでしょう。私たちは世界や他者の断片に自分の感覚や考えを重ね、共感したり反発したりすることで世界や他者を理解していくと同時に、自分を理解してもいきます。世界や他者のまえに自分が相対化され、解きほぐされるからです。

コロナ下でベストヤス페인風邪など感染症について書かれた作品*3が話題になりましたが、2019年までならこれらの作品を寓話やSFのように読んだかもしれません。しかし、いまの私はそうは読めない—そのことを感じながら読むとき、〈私〉を読むことにもなっていると思います。

—先生の著作の中に、書物の「読み」とは「一回一回がかけがえのない「出来事」という印象的な表現がありました。

「文学という出来事（The Event of Literature）」はイギリスの文芸批評家哲学者のT・イーグルトンの言葉です。同じ楽譜でも人によって演奏が違うように、同じ本でも読者が違えば読みが異なります。それだけでなく、同じ奏者が二度と同じように弾けないように、読みもまた一回性のものです。一度読んだ本を再読することは可能ですが、まったく同じように読むことは不可能です。昨日の私と今日の私は違うのですから。また、どんなに練習しても昨日より今日の方がうまく弾けるわけではないように、努力で完全にコントロールできるものでもありません。その〈ままならなさ〉に楽しみがあります。

—では、読書生活の充実のために、私たち読者が心がけること、特に図書館の活用方法についてアドバイスをいただけますか？

読書は一回性の出来事(event)である、そしてその出来事は私が参加しなければ始まらない、だからとりあえず本を読もうと心がけることはできそうです。

図書館に足を運べば、本を読んでいる



教育学部准教授
鈴木 愛理
SUZUKI Eri

愛知県生まれ。専門は、国語教育・文学教育。趣味は器楽演奏（コントラバス）で弘前市内を中心に活動している。

人の姿に出会えます。コンサート会場や映画館でも同じ時間や空間を共有している喜びがあると思いますが、読書に関しては図書館がそれにあたるのではないのでしょうか。読書は孤独な営みに見えるかもしれませんが、だからこそ本を読む人がいるということが安心感や励みになることがあります。

インドの図書館学者、S.R.ランガナタンが著した『図書館学の五法則』には、第三法則として「いずれの図書にもすべて、その読者を」と記されています。すべての本には、それぞれその本にふさわしい読者が存在している、よって図書館（司書）は本と読者とを結びつける何らかの方法を模索すべきであるという主張ですが、図書館の利用者が第三法則に応えたいという心持ちをもつことも大切かもしれません。どの本も読者を待っているのだ、と。

ランガナタンによれば、これまで図書館が採用した方法のなかで最もすぐれているのが開架制です。利用者は自分のもののように自由に本を手にすることができ、本を選んだり、発見したりする楽しみがあります。書架上の本の背表紙をざっと眺めたり、本や雑誌の中身を拾い読みすること、求める情報を偶然みつけたり、新たな情報に出会うことをブラウジング(browsing、牛などが若葉や新芽を食べる意)といますが、それを期待するのとならないのでは、図書館の歩き方が変わってくるように思います。

(聞き手：広報委員 須田)

*1) 川上弘美『神機』

*2) 江國香織『ホテルカクタス』

*3) カミュ『ペスト』、志賀直哉『流行感冒』など



先人が、歩いた道

歴史を感じる

「私には日本で見てきたどの峠にもましてこの峠がすばらしいと思われた。光り輝く青空の下でもう一度見たいとさえ思ったことだった。」(295頁)

この文章は、英国の紀行作家イザベラ・バードの著作『新訳日本奥地紀行』の一文です。

矢立峠の美しい自然をみようと思ってきました。

矢立峠は、秋田県大館市と青森県平川市の県境にある峠で古くから人々の交通の要衝であり難所とされています。(某tv局のバスで旅する番組では、徒歩で超える場面がありました。)

遊歩道を散策すると「イザベラ・バード記念碑」があり、当時をしのぶことができます。また、伊能忠敬、吉田松陰、明治天皇などがこの峠を越えたとされ、記念の碑が建立されています。

歴史上の人物が通った道を実際に通って旅をするのもいいかもしれません。

本を持って出かけよう

…… 第3回 ……

矢立峠を歩く



『新訳日本奥地紀行』

英国の紀行作家イザベラ・バードが、明治11年6月～9月にかけて東京から北海道までを旅行した記録。文明開化でにぎわっている東京・横浜と違う地方の風俗・自然等が細かく記載されている。

『新訳日本奥地紀行』(東洋文庫)
イザベラ・バード [著]; 金坂清則訳,
平凡社, 2013年
080 || 11 || 840 (文庫新書コーナー)

附属図書館 文庫新書コーナー

図書館本館2階には、アジア地域に関する古典作品を現代日本語訳で出版している東洋文庫の他に岩波文庫・筑摩文庫などを集めた「文庫新書コーナー」があります。お出かけのおともにぜひ。

教えて！あなたの好きな弘大図書館 FAVORITE LIBRARY



学生さんと図書館スタッフのおしゃべり企画！

弘大図書館の中で自分が気に入っている場所・もの・コトについて、ざっくばらんにおしゃべりしてみました。

人文社会科学部 4年 若松有希さん 好きな本は 川上弘美『私の好きな季語』	教育学部 4年 互野初美さん 好きな本は 川上弘美『三度目の恋』	理工学部 4年 熊本宏樹さん 好きな本は 太宰治『斜陽』	農学生命科学部 4年 瀧野佑子さん 好きな本は 森見登美彦『夜行』
--	---	---	--

どんな時に図書館に来る？どこがお気に入り？

私が図書館に来る時は、勉強がマジでやばい時(笑)。あとは自分の就活の時に一番使ったんですけど、新聞よまなきゃ、っていう時に東北の基本的な新聞が入っているの、照らし合わせて読むとかそういう時に来ます。

私は、ここで勉強するって決めたらそこにずっといたいタイプなので、開いてから閉まるまでずっといいんだよっていう図書館の空間がすごいありがたいです。

自分は基本、何もなくても図書館に来るタイプ。朝起きてすることないからとりあえず図書館に来て、本探して開いて読む感じで。家にいるより図書館にいる方がいいんじゃないかな。

みんなすごく立派な使い方してる(笑)。私は、図書館の匂いを嗅ぎに来る(笑)。アカデミック・commonsの雰囲気も好きで、視覚情報として目に入れると癒されるんです、この空間自体が。本当に虚無になった時にグローバル・スクエアの英語が流れるところの、丸いふかふかの椅子、隅にもってきてドンってこしかけてるのが好き。



あれ、気づくと隣の壁にくっついてる(笑)
これ ← それ、私かもしれない(笑)

私は2階の書庫かな。本とか参考文献とか探すんですけど、だいたいどこ見たって本じゃないですか。あそこは特に人のいる場所がすごく狭くて、本当に「ほ〜〜んっ」って感じのところが好き。だから参考文献探しに行ったはずなのに、全然関係ない自分の専門分野でもない本を借りて帰っちゃうっていう。



思わぬ出会いがあるんですね。

はい、すごいいい楽しいです。

自分も基本、グローバル・スクエアにいるんですけど、雑誌の書庫も結構好きで、バックナンバーを昔のほうからざ〜っと目を通してみようかな、と。バックナンバーだと自分ではもう買えないというか、流通してないから探せないし。でもだいたい好きな雑誌のバックナンバーがそろっているの、それを読みなおしたりして。

バックナンバーはもう買えないですからね。

いいな〜と思うサービスは？

私 POP コンテストがすごく好きで。

よっ！受賞者！
え？受賞者なんですか？

まだまだ「こんな描いたよ〜」って言えるようなものは作ってないんですけど、いつの間にかシール貼ってもらって、いつの間にか自分も好きな本を紹介できるし、図書カードももらえるし(笑)。最近では応募作品も増えたから、「あ、こんな本あったんだ」っていうのが分かるので、あのコーナー自体もすごく好きです。



応募はしないけど、シール貼るのは楽しい。これもいいな、あ〜、これもいいな〜って。

Twitter も好きです。

私、たぶん瀧野さんがリツイートか「いいね」してたやつを見てた〜。

あっ、うれしい！(#^^#)

新着情報とか、あと豆知識的な内容が話されて、「あ、それはみんな絶対知りたいよ」って思って「いいね」します。

Book Hunting、自分は参加したことはないんですけど、あそこにある本を読むことは結構多くて、多分誰かがまとめてこのへん選んだのかな、てのが分かるんですけど、そういうの見ながら「自分もやってみればよかったな〜」と思います。でも、そこから色々まとめて同じジャンルを3冊くらいとってみたいるので、読むほうも楽しいです。

誰かが「いいよ」とか、リツイート・「いいね」してたりしたものだ、自分もチャレンジしてみようかな…と、そういう影響で広まってってるんですね。

いろんな本の紹介をする場所・きっかけとして読書会ができれば面白いのかな〜
わあ！やりたい！

私の周りの人は暇になったらみんなゲーセンに行くんですけど、「暇になったら図書館で散歩してみるといいよ」って私言うんです。2階の新しい自習室の本棚に、芸術系の本が沢山あって、最近立ち寄った時に、動画編集から現代美術までいろんなものがある、面白くて全部読んじゃったんですよ。私は音楽が好きなんですけど、美術系にも興味がわいてとても楽しかったので、散歩する気持ちであそこに寄ってみたいいいんじゃないかな。

「図書館で散歩」ってすごくいいフレーズ！

まだまだおしゃべりは尽きず(笑)…この全貌は別冊で！



Library's Half Year 2022.6~2022.11



6/1	学外者への出納式貸出サービス再開
6/2	令和4年度第1回附属図書館運営委員会
6/6	3階グループ学習室の利用再開
6/16	第9回 Book Hunting @Web 選書(~6/30)
6/20	令和4年度第1回附属図書館広報委員会
6月	6/24 朝日新聞 DB 件数拡大(~7/19)
	7/1 第9回 Book Hunting @Zi ヲウ堂(~7/3)
	7/11 文献検索講習アソール放送開始
7月	7/11 学外者の条件付き入館を開始
	8/2 POP コンテスト応募作品展示・投票開始(~10/31)
	8/8 オープンキャンパス(ミニ展示)
8月	8/22 蔵書点検(~9/22)
	9/8 令和4年度第2回附属図書館運営委員会
9月	9/27 貴重資料保管室燻蒸
	10/17 読売新聞 DB 件数拡大(~1/16)
	10/22 弘前大学総合文化祭古本市(~10/23)
10月	10/27 コーヒー無料提供サービス開始(~12/26)
	11/7 利用者アンケート実施(~11/25)
	11/14 POP コンテスト受賞者発表
	11/24 朝日新聞 DB 件数拡大(~12/21)
11月	11/30 豊泉第56号 Web 公開

附属図書館では感染症対策のため、昨年度からサービスを縮小・制限していましたが、6月には、グループ学習室の利用再開、7月には学外者の条件付き入館を再開しました。

例年実施していた基礎ゼミガイダンス、蔵書点検、Book Hunting も開催し、少しずつ平常に戻ってきている感があります。

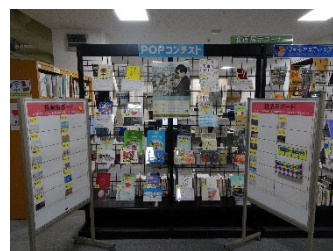
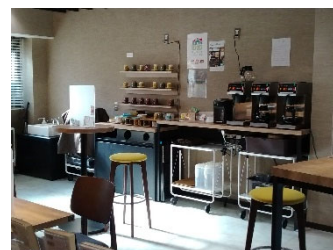
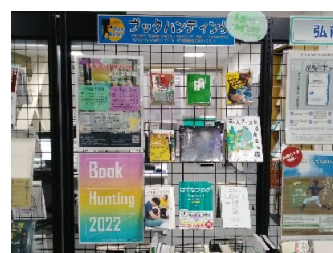
7月から9月にかけて、4~6月に実施した「オーダーメイド文献検索講習会」の内容をオンラインでアンコール放送とともにリクエストの多かった内容や図書館スタッフおすすめの内容等を生配信しました。

POP コンテストの応募作品の展示8月2日から始まり、8月8日のオープンキャンパス時にたくさんの方々に投票していただきました。

弘前大学総合文化祭が10月22/23日に開催され、3年振りに古本市を開催しました。古本市は、不要となった図書を皆さんに再利用(リユース)していただくため無料で提供しています。

第76回読書週間の開始にあわせ、10月27日から本館1階のリフレッシュ・スペースでコーヒーの無料提供サービスを実施しています。(12月26日まで(予定))

館内設備やサービスに関する利用状況や満足度、要望等を把握し、今後の図書館運営及びサービス改善の参考とするため利用者アンケートを11月7日から11月25日の期間、実施しました。




寄贈図書紹介

本学関係者の著作で、図書館に寄贈された図書資料をご紹介します。(令和4年4月～令和4年9月受贈分)

寄贈者	書名	著者・編者等	出版社	冊数	所蔵先
今泉 忠淳 (医)	50の町の50の銀座: 写真集	今泉忠淳	北方新社	2	本館1/分館1
植木 久行 (名)	東奥義塾高等学校所蔵旧弘前藩古典籍調査集録: 弘前大学地域未来創生センター藩校資料調査プロジェクト (第8集)	弘前藩藩校資料調査プロジェクトチーム, 原克明	弘前大学人文社会科学部・弘前大学地域未来創生センター弘前藩藩校資料調査プロジェクトチーム	1	本館1
大庭 輝 (保)	認知症plusコミュニケーション: 怒らない・否定しない・共感する	大庭輝, 佐藤眞一	日本看護協会出版会	1	本館1
菊地 一文 (教)	確かな力が育つ知的障害教育「自立活動」Q&A	菊地一文	東洋館出版社	1	本館1
菊地 一文 (教)	知的障害教育における「学びをつなぐ」キャリアデザイン: 本人の「思い」や「願い」を踏まえた「深い学び」の実現に向けて	全国特別支援学校校长的障害教育校長会, 菊地一文	ジヤース教育新社	1	本館1
佐藤 功 (鵬)	気管支の枝読みで考える胸部画像診断入門: 肺既存構造と区域解剖学から学ぶ読影の基礎	佐藤功	日本医事新報社	1	分館1
高内 悠貴 (人)	ブラック・ライヴズ・マターから学ぶ: アメリカからグローバル世界へ	武内進一, 中山智香子[ほか]	東京外国語大学出版会	1	本館1
辻本 侑生 (地創)	山口弥一郎のみた東北: 津波研究から危機のフィールド学へ	内山大介, 辻本侑生	文化書房博文社	1	本館1
辻本 侑生 (地創)	焼畑が地域を豊かにする: 火入れからはじめる地域づくり	鈴木玲治, 大石高典, 増田和也, 辻本侑生	実生社	1	本館1
辻本 侑生 (地創)	津波のあいだ、生きられた村	饗庭伸[ほか], 山岸剛	鹿島出版会	1	本館1
花田 勝美 (名)	ひなちゃんとおひさま: お母さんと読む絵本: 子どものための紫外線講座	花田勝美, 石川春佳	アクセス21出版	1	本館1
弘前大学大学院医学研究科胸部心臓血管外科学講座	大動脈弁はなぜ石灰化するのか: 大動脈弁石灰化: 分子機構治療予防	福田幾夫, 大徳和之, 瀬谷和彦, 于在強	弘前大学大学院医学研究科胸部心臓血管外科学講座	1	分館1
弘前大学出版会	スクリーニング(検診/健診)プログラム: ガイドブック: 効果を高め、利益を最大化し、不利益を最小化する	斎藤博, 松坂方士, 雑賀公美子	弘前大学出版会	3	本館2/分館1
弘前大学出版会	基礎物理学実験: 数物科学科用の手引き	弘前大学理工学部数物科学科	弘前大学出版会	1	本館1
弘前大学出版会	電子情報工学実験I: 実験の手引き (令和4年度版)	弘前大学理工学部電子情報工学科	弘前大学出版会	1	本館1
弘前大学白神自然環境研究センター	白神山地の地すべり: 土地と森林の結びつき	楢垣大助, 弘前大学農学生命科学部附属白神自然環境研究センター	弘前大学農学生命科学部附属白神自然環境研究センター	1	本館1
弘前大学白神自然環境研究センター	樹木の材と年輪年代学	石川幸男, 弘前大学農学生命科学部附属白神自然環境研究センター	弘前大学農学生命科学部附属白神自然環境研究センター	1	本館1
松木 明知 (名)	華岡青洲～その医学と思想～ = Seishu Hanaoka -His Medicine and Philosophy-	松木明知	真興交易(株)医書出版部	1	分館1
諸岡 道比古 (名)	啓示の哲学 (下巻)	諸岡道比古	文屋秋栄	1	本館1
山田 巖子 (人)	あおもり俗信辞典	佐々木達司, 山田巖子, 小池淳一	青森文芸出版	1	本館1

※敬称略。寄贈者名の50音順。カッコ内は寄贈者所属。(医): 医学研究科、(名): 名誉教授、(保): 保健学研究科、(教): 教育学部、(鵬): 医学部鵬校友会、(人): 人文社会科学部、(地創): 地域創成本部

**冬休みのお供に、
図書館福袋はいかがですか？
中身は借りてからのお楽しみ！**



**図書館
福袋**


**12月下旬
実施予定**

袋に添えられたPOPが中身のヒント。今まで手に取ることのなかった本との新たな出会いがきっとあるはずです。

図書館福袋とは

年始の初売りでおなじみのアレを図書館風にアレンジした**借りる福袋**です。

図書館福袋の詳細は昨年度実施した際の**ブログ記事**をご覧ください。



◆編集後記

表紙の写真は私が撮影しました。学生さんのおしゃべり企画で話題になった場所（※別冊参照）ですので、よかったら探してみてくださいね。少しだけ加工してありますが、紅葉の美しさはそのままです。（Maru）

「本を持って出かけよう」では、矢立峠の遊歩道を歩きました。道の勾配が険しく足が筋肉痛になってしまいました。道の駅やたて峠から秋田よりに向かったところに入口があります。（Sasaki）

「先生インタビュー」では、読者と本を結びつけるためのアイデアを沢山いただきました。書架の間を歩いていると、「次はこれだよ」と、絶え間なく本たちから呼ばれているような気がします。（Suda）

弘前大学附属図書館報「豊泉」 第56号

発行日：令和4年11月30日

発行：弘前大学附属図書館

編集：弘前大学附属図書館広報委員会

〒036-8560

青森県弘前市文京町1

TEL 0172-39-3162

FAX 0172-39-3171

MAIL libpress@hirosaki-u.ac.jp



◆◆◆◆◆図書館員ちょこっとコラム◆◆◆◆◆

医学部分館の危機管理体制について

1. 水害対策

2022年8月3日と9日、弘前市は大雨に見舞われました。医学部分館付近を流れる寺沢川や通学路にあたる岩木川や土淵川も水位が上昇し一時避難指示が出される事態となりました。この寺沢川ですが、豪雨の際には医学部分館より約1.5km上流の土淵川放水路を通じて岩木川に迂回放水されることになっておりますが、川底に土砂が堆積していたり清水橋付近の土淵川との合流点でバックウォーターが発生した場合には急速に水位が上昇することがあります。また医学部分館付近では堤防のような盛土部分が無い掘込構造となっているため溢れた水の流れによっては川の方へ引き摺り込まれる可能性があります。さらに限られた川幅で流水量を確保するために深く掘り込んでありますので増水時に転落すると足が川底に届かずそのまま流される可能性があります。

医学部分館では国土交通省のサイト「川の水位情報 (<https://k.river.go.jp/>)」を通じて周辺の河川の水位状況を把握すると共にSNSを通じて寺沢川の水位状況を画像や動画で発信し来館者に注意を促しました。特に岩木川流域で避難指示が出された8月9日に公開した

動画は再生回数1万回を超えており、利用者の災害情報への関心の高さと共に利用者の安全を預かる責任の重さを改めて実感しております。

2. COVID-19 感染症対策

(1)施設環境部の指導の下、二酸化炭素量の変化から換気量を測定する方法で検査したところ、医学部分館では窓を密閉した機械換気環境でも一時間あたり1.5回以上の換気量があることが測定され、必要な換気が行われていることを確認しました。なお、館内でのマスク着用にご協力いただけない利用者が見られる場合には他の利用者のウイルス接触時間をできる限り短くするため、機械換気に加え自然換気を併用する場合がありますのであらかじめご了承ください。

(2)自動掃除機を導入し清掃を徹底すると共に清掃の自動化により捻出したマンパワーを机や椅子手すりなどの消毒作業を開館前、13時、17時に実施しております。

その他、地震や火災などの災害、停電や迷惑行為といったトラブル、J-アラートの発報時などの緊急事態についてもマニュアルを作成しておりますので、非常時には職員の指示に従うようお願いいたします。（ふじい まさつぐ）

【弘大図書館公式 twitter】

弘大図書館に関する情報を発信しています。お気軽にフォローしてみてくださいね。「#弘大図書館」のハッシュタグで、「弘大図書館のここが好き!」「弘大図書館でやってほしいこと」「豊泉読んだ」などのご意見・ご感想を募集中!



@HirosakiUnivLib

【弘大図書館ホームページ】

2022年3月、弘大図書館ホームページをリニューアルしました。より見やすく、知りたい情報にたどり着きやすいようになりましたので、ぜひご活用ください。

<https://ul.hirosaki-u.ac.jp/>



図書館ホームページ

教えて！あなたの好きな弘大図書館 FAVORITE LIBRARY

いつも図書館に来てくれる学生さんたち、普段どんな風に図書館で過ごしているの？
スタッフはものすごく気になる！ざっくばらんにおしゃべりしてみたい！…ということで、
図書館のお気に入りの場所・もの・コトをテーマに学生さんと図書館スタッフの座談会を企画してみました。
『豊泉』No.56 本誌は抜粋した内容ですが、こちらでフルバージョンをお楽しみいただけます。



人文社会科学部 4年
若松有希さん
好きな本は 川上弘美
『私の好きな季語』



教育学部 4年
互野初美さん
好きな本は
川上弘美 『三度目の恋』



図書館スタッフ 丸山
好きな本は
小川系
『食堂かたつむり』



理工学部 4年
熊本宏樹さん
好きな本は
太宰治 『斜陽』



農学生命科学部 4年
瀧野佑子さん
好きな本は
森見登美彦 『夜行』



図書館スタッフ 須田
好きな本は 荻野弘之
『奴隷の哲学者エピソード 人生の授業』

須田:この座談会のテーマは「My Favorite Library」ということで、図書館のお気に入りの場所、もの、コトとか、サービスについてざっくばらんに教えてもらいたいな、と思っています。

◇—どういう時に図書館に来る?—◇

須田:皆さんは、どういう時に図書館に来ますか?最初にざっくりとお話ししてもらえますか?

若松:私が図書館に来る時は、勉強がマジでやばい時(笑)。勉強する場所をころころ変えるんで、家で勉強して学校で勉強して、とかっていう流れで図書館に来て勉強します。あとは新聞を読みたい時に来ます。自分の就活の時に一番使ったんですけど、それこそ時事ものだったりとか、あと自分の志望が新聞社だったのでとにかく新聞を読まなきゃ、っていう時に、図書館には東北の基本的な新聞が入っているので、照らし合

わせて読み比べるとか、そういう時に来ました。

須田:わあ、うれしい。まさしくそういう使い方をしていただければいいな～、ということで図書館ではあんなにたくさんの種類をそろえているので。

若松:狙いどおりにいきました(笑)?

須田:はいっ!ありがとうございます!

互野:私は、まずは勉強したい時に来るといのがすごく強いです。私、ここで勉強するって決めたらそこにずっといたいタイプなので、何時間でも…開いてから閉まるまでずっといいんだよっていう図書館の空間がすごいありがたいです。あとは新しい本とか話題になっている本を、いち早く取り入れて新着コーナーに置いていただいているので、それを借りにいくのが楽しみなんですけど、そういう本っていつも予約がいっぱいなので(笑)、まだかな～とワクワクしながら空いている展示スペースを眺めるってのも結構好きです。

須田:直木賞コーナーとか、並べているけど全部借り

られていてね(苦笑)。

丸山:結構きれいに棚が空ですよ(笑)。

須田:そう、展示する意味があるのかっていう…

若松:もはや…(笑)。

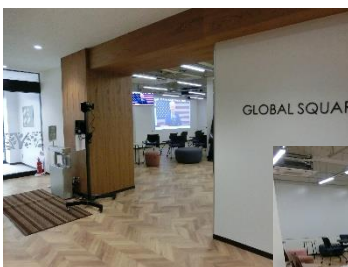
丸山:図書館の宿命というか。でもそういうのがあるよって、分かるだけでも展示の意味はあるかな。

熊本:自分は基本、何もなくとも図書館に来るタイプ。朝起きてすることないからとりあえず図書館に来て、本を探して開いて読む感じで…目的なく。家にいるより図書館にいる方が多いんじゃないかな。だいたい図書館にいればやることのできるの。勉強もできるし本も読めるし、雑誌も結構多くあるので雑誌チェックしたり、という風に時間を使っています。

須田:館内探すとだいたい熊本さんいるもんね。

熊本:はい、そこらへんにいます(笑)。

瀧野:みんなすごく立派な使い方をしてる(笑)。私いつも家で勉強する時は寝ながらやるんですね。だから勉強目的でここには来ないんですけど、じゃ何やるかっていると、図書館の匂いを嗅ぎに来る(笑)。匂いが好きで、最近ここ(アカデミック・コモンズ)のスペースができて、その雰囲気が好きなんです。視覚情報として目に入ると癒されるんですね、この空間自体が。本当に虚無になった時にグローバル・スクエアの英語(BBC ワールドニュース)が流れるところの丸いふかふかの椅子のところにドンって腰かけてるのが好きなんですよ。



須田:あの、一番大きい椅子?

瀧野:そうです、一番大きい。ずっと英語の放送を見る…半分くらい理解できないけど(笑)。ずっ〜と見て、

「へえ〜」ってやるのが好きですね。

若松:そこにいることが目的、みたいな。

瀧野:そうそうそう。

須田:ここを作る時にワーキングという形で職員も携わったんですけど、色々こだわってコンセプトとかデザインとかを決めたので、こういう感想が聞けてすごくうれしい。雰囲気が好き、と言っていただけなのは何よりのご褒美です、私にとって。

若松:グローバル・スクエアとか、ふらっと入っていきやすい感じですよ。

◇—図書館のお気に入りスポットは?—◇

須田:ちょうど今、次の話題としてお気に入りのスポットを聞こうと思ってたんです。図書館の中でここが好き〜っていう場所がありますか?一番好きなどころ選ぶとしたら。

丸山:瀧野さんはグローバル・スクエア?

瀧野:そうですね、一番好きなのはグローバル・スクエアですね。一番大きい丸い椅子を隅のところにガッて置いて、机をね、前の方に持ってきて、そこでぼ〜っとしたりして…。

須田:あれ気づくと隅っこの壁にくっついてるんだよね(笑)

瀧野:それ私かもしれないっ!

須田:くっつけて使いたいのだろうな〜、背もたれがないからかな〜、と思っていたけど、じゃあ壁によりかかって快適に使っていただけてるんですね。

瀧野:そう、ちょうどいい感じで。そこにたまに友達が「たきの〜ん♪」って言って来て、隣にくっつけて座って。

須田:くっついてる、くっついてる(笑)。

瀧野:私かもしれないですね(笑)。

丸山:なんかそういうちょっとした出会い…「久しぶり〜」とか会える場所になっているのがいいですね。

須田:あそこは図書館の中でもしゃべっていいところですからね。そういう風にワイワイしてもらえてるんですね。

丸山:今日も久しぶりに学生さんがワイワイおしゃべり



して、にぎやかでいいな~と思って。

須田:夏休みは寂しかったですからね。シ〜ンとしてるな、って。

若松:席が空いていて座りやすかったです(笑)

須田:若松さんはいかがですか?

若松:私は2階の第1書庫…コンピューター置いているところから入る場所、あの辺が好きです。

丸山:本がぎっしり入ってるところが?

若松:はいはい、スポットと言えるか分からないけど。

須田:あのあたりが局地的に好きとか?扉をギイ〜って開ける感じが?

若松:本とか参考文献とか探しにあそこに入って探しますが、そうすると、だいたいどこ見たって本じゃないですか。図書館なんてだいたいそうだと思うんで



すけど、あそこは特に人のいる場所がすごく狭くて、本当に「ほ〜〜〜んっ」って感じのところが好き。瀧野さんが「図書館の匂いが好き」って言っていたけど、私は書庫の匂いが好きです。本の匂い、紙の匂い

ってというか、インクの匂いってというか。だから参考文献探しに行ったはずなのに、全然関係ない自分の専門分野でもない本を借りて帰っちゃうっていう。

丸山:思わぬ出会いがあるんですね。

若松:すごい楽しいです。

互野:私は、グローバル・スクエアの奥まったところ、(多読の本に)囲まれてるところが好きです。別に英語

ができるとかそういう訳ではないんですけど、あそこにいるとコーヒーの匂いがしてきて…コーヒーも飲めるわけじゃない



んですけど、コーヒーの匂いがする中で勉強ができるのがすごくうれしくて、あそこに居座っています。

須田:去年のリニューアルオープンで、リフレッシュ・スペースでコーヒーを無料提供していた時ですね。…ね、熊本さん?

熊本:自分、コーヒー作ってました(笑)。

若松:え?そうなんですか?

須田:彼がアルバイトでやってくれたんです。いつもだいたい図書館にいてくれるので、急にシフトの人が来れない時とかも入ってくれて。さっきまで利用者だったのに突然フラッシュモブ的にエプロンして出てきて、コーヒーを作ってくれるという…。

若松:かっこいい!

瀧野:いつもありがと〜。

互野:そうやって、コーヒーの匂いが保たれていたんですね。

丸山:コーヒーのアロマはいいですね、落ち着くし集中力も上がるし。

熊本:自分も基本、グローバル・スクエアにいるんですけど、雑誌の書庫も結構好きで、バックナンバーを昔のほうからぎ〜と目を通してみようかな、と。バックナンバーだと自分ではもう買えないというか、探せないし、流通していないけど、だいたい好きな雑誌のバックナンバーがそろっているので、それを読みなおしたりして。人もあんまり来ないし、結構落ち着くので。

丸山:普通バックナンバーは買えないですからね。

熊本:そうですね。

須田:確かに、図書館には本屋さんでは買えない雑誌も結構あるのでね。

◇—人に教えたくない穴場スポットは?—◇

須田:じゃあ、次の話題で、人に教えたくない穴場スポットは?

丸山:えっ…教えたくないのに教えろと?(笑)

須田:ええ(笑)、なので教えたくない場合は、紙面には載せませんから私たちだけにこっそりと(笑)。あの場所の何番目のあの席が、とかね。いらっしゃるんですよね、例えば××××××の…

丸山:ああ、××××××のところですよ。

瀧野:まさにそこですっ、私!

若松:言おうと思ってました!

須田:え、みんなそこ好きなの?なんで?

若松: 静かだし暗いし誰もいないし

瀧野: 夏行くと涼しいんですよ。あと、木が目の前にあって景色が見えるので、四季を感じられるっていうのが。秋は本当にきれい、紅葉とか…冬は真っ白で。

若松: 冬は行ったことない(笑)

瀧野: あ、寒いよね。

須田: よくあそこに座ってる方がいるな～とは思ってたけど、じゃ、たまたま同じ方に会っていたというだけで、意外とあそこは入れ代わり立ち代わり皆さん座っているってことですね。へえ～そうなんだ。……………これって、やっぱり教えないほうがいいのかな(笑)。

一同:(笑)

丸山: 写真1枚だけ載せておきましょうか、場所は書かないで。

須田: じゃ、「実は皆さんに教えたくない穴場スポット…探してみよう」ということで。

若松: どうしようっ、今度行ったらすごい人がいたりして(笑)…「あ～、ここかあ～」みたいな。



↑皆さんのお気に入り
さて、ここは一体どこ
でしょうか？

須田: 探してくれるかな？

瀧野: 楽しいかもしれない(笑)。

丸山: この図書館は個室がな

いから、人がいないところで1人でやりたい、となったらそういうところがね。

若松: 怖いくらい静かだよな。

丸山: 私はオープンテラスも推しておきますね。パラソルも立ててるんで、天気いい時は外に出られますよ。

須田: 私のおすすめスポットは1階のこぎんざしパネルのある席の椅子。気持ちいいでしょ？

若松: ふっかふかですよな。初めて座った時びっくりしました。あまりに沈むから、ふ～って(笑)。

須田: あれは、赤ちゃんがお母さんのおなかにいた時をイメージして包まれるような気持ちで座ってほしい、ということで開発されたらしいですよ。

丸山: 私は1年生向けのガイダンスのとき、あの椅子のこと必ず紹介しています！

須田: 多分この図書館の中で一番座り心地がいい椅

子じゃないかな。

丸山: あそこはペアワークをするために作られた席ですよな。

須田: そう…なんだけどペアワークするにはちょっと狭いのかな、とも思ったりする。実はあそこってグループワークしていいエリアなんですよ。(現在は感染症対策で1人学習エリアとして運用)



若松: え? そうなんですか? 知らなかった。

須田: 2階は完全なサイレントエリアなんですけど、実は1階は、どうぞペアワークしてください、っていう風に作ったんですよな。

若松: だからあの形なんですよな。知らなかった～。

須田: なかなか伝わってない証拠ですよな～(苦笑)。

丸山: 一応、利用案内だとサイレントエリアは2階っていうふうに色分けはしてるんですけどね。

須田: 利用者アンケートでは、「新聞めくる音が気になる」っておっしゃる方もいるんで、「う～ん、そうか～。」って…。図書館を改修する時には、私たちがアンケートとかで寄せられた声を参考にしつつ、例えばこのペアワークできるスペースにしても、こういう風にしたら喜んでももらえるんじゃないかな、と思って形にしていた部分があるんですけど、でも実際にこんな風に学生さんとおしゃべりする機会とかって今まであまりなかったので、思い違いだったりする部分もあったり、「え? そういう使い方の方が好きなの?」とかいうことも結構あるんですよ。実際に使われ始めてからそういうのがありますね。でも、「思ったのとは違う使い方だけど、なんかそれもいいんじゃない?」みたいなこともたくさんあるんで、柔軟に対応していこうとは思ってます。

丸山: こんな風に意見を聞く機会がもっとあればいいんですけどね～。

若松: 私は、新聞は新聞架から持ち出してリーディング・ルームで読んでます。あそこで読むとページをめくる音も BBC の音にまじっているからあまり気にならないし、ちゃんと広げて読めるし、私あそこでゆったりと読んでます(笑)。

須田: そうそう、新聞を(新聞用閲覧席が立って読むタイプなので)立って読まなきゃいけないのはきつい、というご意見もあって、図書館としては必ずその席で読んでください、という意味ではなくて、階段の上り口にある大きなテーブルで読んでる方もいらっしゃるんですよ。利用後に元の場所に返してくれればそれで…ということで、最近はそんな風にご案内してますね。

若松: 新聞、大きいから堂々と開ける場所が、私にとってはあそこなんです。

丸山: テーブル大きくていいですね。

若松: バックナンバー読む時もあるところにたくさん積んで、携えて読んでました。



須田: 作業テーブルみたいなのがあまりないよね…最近、そう思う。グローバル・スクエアで、テーブル付きの椅子に新聞を置いて作業している学生さんを見て、「そうだね、フレキシブルに使える大きなテーブルがあればいいんだよね。」と思ったことが。それはオープンしてみても皆さんの使い方を見て気づいたこと。

若松: あったらうれしいですね、今は使わないかもしれないけど。たぶん2年生の時とかだったらグループで活動する時が結構あったから。

◇—「いいな」と思う図書館の取り組みは?—◇

須田: では次のテーマで、「いいな」と思う図書館のサービスや取り組みなど、何かあれば…。スタッフとしては、ドキドキしますね(笑)。

若松: 私はホワイトボードが結構うれしい。自分はいまだに大人気で図書館を利用するってことがないので、超個人的なんですけど、ホワイトボードの壁に今日のToDoを書いたり、2階のアクティブ・ラーニング・エリアにも真正面にホワイトボードがある



ので、あれをすごい活用する。

須田: 頭の中をアウトプットするのに手っ取り早く使える?

若松: そうそう。

丸山: ただの仕切りじゃなく(笑)使ってもらえてよかった!

須田: 互野さんはどうですか?

互野: 私、POP コンテストがすごく好きで。

須田: そうですよ、受賞者受賞者♪

若松: え? 受賞者なんですか!?

互野: はい。まだまだ「こんなの描いたよ〜」と言えるようなものは作ってないんですけど、いつの間にかシール貼ってもらって、いつの間にか自分も好きな本を紹介できるし、図書カードももらえるし(笑)。最近は応募作品も増えたから、「あ、こんな本あったんだ」というのが分かるので、あのコーナー自体もすごく好きです。



↑互野さんの作品→
2年連続受賞でした!

須田: 新刊書だけでなく昔の本とかも掘り出してくれますからね、皆さん。私たちはここで働いているけど、すべての蔵書を把握しているわけではないので、「こんな本があるんだな〜」と発見できるっていうか。やっぱり人が変わると選ぶ本も違うし。やっぱりこれは今後も続けないといけませんね、丸山さん。

丸山: はい、私、担当者です、頑張ります!

若松: 応募はしないけど、シール貼るのは楽しい。2階にあがってすぐに見えるじゃないですか。これもいいな、あ〜これもいいな〜って。

須田: その日によって違うんですね。私たちは毎日ここに来るので、昨日はこれがいいと思ったけど今日はこっちがいいと思うな〜、と貼ってみたり。シールは1日1回、何回でも貼れるんでね。その日のコンディション

ってというか、食べ物と同じ感じで、ある日はカレーが食べたい、次の日はラーメンが食べたくなくて、また次の日はイタリアン…、でも今日はおにぎりかな、とかそういう感じで、日によって惹かれるものが違う気がします。

瀧野：私は、インターネットのサービスがいいと思います。例えば借りてる本の延長とか、図書館まで来なくてもパソコンとかスマホからできるっていうのが。

丸山：My Library のサービスですね。

瀧野：そうです、そうです。お恥ずかしいことに、図書館サポーターになってから知ったんですね。

須田：意外と知らない人も多いんですよ。

瀧野：そう、意外と知らない人もいて、友達に「どうやったら延長できるんだっけ〜?」とか聞かれたりした時は「これできるよ」ってドヤ顔しながら教えたりして(笑)。そうできるぐらいサービスの質が高いっていうのがあるがたいっていうのと…あと、Twitter も好きです。

丸山：あっ、うれしい!

瀧野：新着図書の情報とか、あと豆知識的な内容が話されてて、「あ、それはみんな絶対知りたいよ」って思って「いいね」します。

丸山：皆さん Twitter ぜひよろしくお願ひいたします。



@HirosakiUnivLib

須田：やっぱり図書館だけのツイートよりも、インフルエンサーがリツイートしてくれたり「いいね」してくれたりするとすごく影響が強くなって感じしますよね。

丸山：生協さんが「いいね」してくれたり、リツイートしてくれたりすると、伝わってるんだな〜とか、そこからさらに友達から伝わっていくんだろうな、と思うんですよ。

須田：リニューアルした時に珈琲研究会さんが結構図書館の Twitter をリツイートしてくれましたね。

熊本：はい。そうですね。

若松：私、たぶん瀧野さんがリツイートか「いいね」して

たやつを見てたんだと思う。図書館のはフォローしてないけど、見たことある。

瀧野：図書館サポーターのブログ記事とかリツイートしてましたね。

須田：そうやってみんながリツイートしてくれると…

丸山：広まりますよね〜。ちなみに生協さんの Twitter、フォローしてる人は?あ、皆さん。お弁当の情報とかのっていいですよ♪

須田：わりとインプレッションが高いものは生協さんがリツイートしてくれてたりするんですよ。

丸山：熊本さんはどうですか?

熊本：Book Hunting、自分は参加したことはないんですけど、あそこにある本を読むことは結構多くて、新しい本とか。多分誰かがまとめてこのへん選んだのかな、ていうのが分かって、映画がまとめてあったり、いつだったかは押井守さんの5冊くらいあって、そういうの見ながら「自分もやってみればよかったな〜」と思います。で、そこから色々まとめて同じジャンルを3冊くらいとってみたいるので、読むほうも楽しいです。

須田：誰かが「いいよ」って言ったものとか、誰かがリツイートしたり「いいね」したりしたものだと、自分もチャレンジしてみようかな、とかそういう影響で広まってるんですね。

丸山：POP コンテストもそうですね、他の人がいいなって思った本から次に自分が読みたい本を選んだりというのは結構ある感じですね。他に誰のオススメの本を見てみたい、とかありますか?

若松：自分の先生が選んだ本ならちょっと面白いかもしれない。

丸山：それは影響力が大きいですね。

若松：自分の先生から聞く本ってどうしても学術書とか参考になる本とかメインだけど、学術書じゃなくて小説とかあったら面白いと思う。先生どんな本読むんだろ〜ってちょっとワクワクします。

瀧野：学外でも大人の人、できればなんですけど会社の重役の人とか、「こういうのに影響受けたんですよ」というのはちょっと見てみたい。一般的な大人の人が何を読んでいるのか、ていうか。本屋とあまり変わらない

かもしれないんですけど、なんだろうな～会社の重役みたいな影響力持っている人が何を読んでいるのかは気になります。

丸山:『豊泉』の「本との出会いを楽しむ」のコーナー読んだことありますか？前は弘前大学を卒業された公認会計士の方だったし、以前には同じく卒業生で IT 企業の社長さんされている方にも書いてもらったり。

瀧野:すごいな～。

須田:あと中学校の先生。教職大学院に在籍していた現役の中学校の先生とか、弘前大学にゆかりのある方で学外の大人の人に書いてもらうことがわりと最近多いですね。

丸山:じゃ、この方向で引き続きいろんな方をお願いしていきましょう。今回の『豊泉』No.56 も職業人というか…とある専門職の方なので。

若松:前回の公認会計士の方が書かれた記事、面白かったです。本はまだ読んでいないけどすごく興味がわきました。

須田:『人事屋が書いた経理の本』ってのですね。

若松:そうです。それに興味がわいたきっかけがちゃんと書いてあって、すごい面白いと思って読んでいました。

丸山:就職してからも色々本を読まないといけないですからね。皆さんいろんな本を読んでいるんだな～と思いましたね。

◇—自分なりの図書館の活用方法は？—◇

丸山:じゃあ、次の話題にいきましょう。

須田:「こういう使い方するとすごくいいよ」っていうのを後輩さんたちにもし教えるとすれば？

瀧野:私の周りの人は暇になったらみんなゲーセンに行くんですけど(笑)、「暇になったら図書館で散歩してみるといいよ」って最近私言うんです。やっぱり「本との出会い」っていうのがあって、ここ(雑誌棟)の2階、新しい自習室の本棚の奥の方に、芸術系の本がたくさん置いてあって、最近立ち寄った時に、動画編集から現代美術までいろんなものがあって、面白くて全部読んじゃったんですよ。

須田:大型本のコーナーかな？

瀧野:あ、そうそう。あそこらへんの。芸術系でいったら



私は音楽が好きなんですけど、美術系にも興味が湧いてとても楽しかったので、散歩する気持ちであそこに寄ってみたいんじゃないかな。

須田:「図書館で散歩」って、今すごくいいフレーズをいただきましたね！

丸山:意外な出会いがあったりしますからね。私、結構鉱物とか宝石とか見るの好きです。図鑑でキラキラ～ってしたやつとか見ると結構癒されます。

須田:個人じゃ買えないですからね、美術全集とか。私は個人的な趣味で、イギリスの航空写真集みたいなのが見ましたよ。空中散歩のような。

若松:クイズ番組とかでやってる「上からとった航空写真を見てこの世界遺産は何でしょう？」みたいな？

須田:あ～。それに近かったかも。森の中の宮殿とか城とか、「ほ～」って見てました。

若松:私は館内をぐるぐるします。最初はグローバル・スクエアで資料みて作業したりとかして、飽きたな～と思ったら上に移動して別の作業して、また飽きたな～と思ったらまた移動して、気分にあわせて時間ごとに場所を変えて過ごすのが好きです。場所によって様子が違うじゃないですか。

丸山:にぎやかだったり、楽しそうだったり、し～んと静まり返って集中、みたいな。

若松:雰囲気結構違うので、気分にあわせて場所を変えて、それこそ1日中過ごして、という方法でここを使っています。

丸山:活用してもらってるみたいで…ありがとうございます！

◇—図書館でこんなことできたらいいな—◇

須田:じゃあ、図書館でこんなことができたらいいな、というのを聞いてみたいんですが…。

若松:私、読書会やってみたくです。

須田・丸山:わあ〜!まさしく最近、やってみたくねって話をしていたんです!

若松:私、卒業論文で八戸の読書会サークルの研究をしていて、もともと自分でもオンラインで読書会を開くくらい読書会が好きで。でも大学ってそういうところあまりないなって。文芸部とかあればやってるのかな。そういう場所ってあまりないなって思って。でもサークルを立ち上げようにもコロナで人が集まってってというのが難しいというのもあるって、さんざん挫折してきたんですけど、そういうのを図書館主催とかでできたら楽しいかなって。いろんな本の紹介をする場所・きっかけみたいな話があったと思うんですけど、それを読書会でできたら面白いのかな、と思っています。

須田:実は私たち、二人ともこの職業でありながら実際はやったことがないので、まずは試しにサークル的に二人でやってみようか、なんてちょうどそんな話になってたんです。

若松:私も授業で読書会をやっていたので、そういう場所があったらいいな、って思いました。ぜひ、お願いします。

須田:じゃあ、まずはサークル的にやってみるので、その辺でチラシとか見かけたら、「あ〜、やるんだなあ〜」って来てね(笑)

丸山:私は「昨日と違う図書館」っていうのが私の目標で、「毎日違う図書館」。実際、昨日と同じ図書館はない訳で、本は常に入れ替わって行ってますし、季節感があったり、新しい出会いとか驚きがあったり…昨日とは違う何かがある場所・昨日と違う何かを期待してくる場所であつたらいいな、と思うんです。

須田:「何はなくてもとにかく図書館に」「とりあえず来てみた」と、そういう人が増えると嬉しいんですね。

丸山:図書館に来たらなんかあるだろう、みたいな。

須田:セレンディピティというか…偶然、たまたま図書館でみかけた「昨日までと違う何か」、この本・このニュースとか、あの人があんなことやってたから…とか、そういうことが起きる場所に。だってリピーターが来る理由ってそういうことじゃないですか。テーマパークと

かね…限定グッズ・限定ドリンクとか、新しいのだから「買わなきゃ」とか。

若松:今このパレードやってるから行かなきゃ、みたいな。

丸山:他にアイデアとかありますか?こんなコラボしてほしい、とか。

熊本:太宰をもっと推してほしいです。早稲田大学は村上春樹ライブラリーとか、規模がでかくて、レコード置いたり私物置いたりしていて、それぐらいの規模でもっと太宰もコーナーとして推してくれたらな、と。



丸山:太宰治研究文庫とかもっと推してもいいのに、わりと隅っこにコソツとありますからね。

須田:太宰を好きな方があそこを見ると、本当に感動されてますよね。この前商談に来られた業者の方も個人的に好きだということで、ご案内したら喜んで見てらっしゃいました。

丸山:少し前に東京の大学にいる方が、太宰の研究しているので来てみました、という方もいらっしゃったので、もっと推すべきですね!

◇—終わりに—◇

須田:今日、こうやってお話を聞いて、皆さんは総じて、それぞれのエリアでそれぞれの機能をすごく活用してくれているんだな〜というのが分かって、それだけでも私は今日嬉しくて、大満足です。いろんな使い方があるから、一人一人の使い方があっていいんだよ、というのが、これからもっともって伝わればいいですね。勉強するだけじゃないし、くつろぎに来てもいいし、とにかくぼ〜っとするだけでもいいし、そんなみんなを受け止められる図書館になりたい、と思います。

丸山:実施している企画とか設備とかサービスとか、おおむね好意的に受け止められているというのが分かりましたし、こういうのがあつたらいいな、というのも教えてもらったし、大変楽しかったです。